

## 第2回 矢田さんを囲んで (2015年9月26日)

### 自立支援協議会について

市町村には、地域生活支援事業が義務づけられている。事業の具体的な内容の一つ相談支援体制について「津山・きびの会」でも、担えるところがあると思えるので、津山市の自立支援協議会への参加を考えてみることを勧められた。説明を聞きながら行政サイドへの働きかけは、必要なことと参加者の1人として感じた。

また、支援に関して

家族・支援者と立場の違いがあるが、本人の望むところは、①私の気持ちをわかってほしい②口やかましく指示しないで③傷つけるような言動をしないで④人間として大人として認めてほしい⑤信頼してほしい⑥世間体を気にしないで⑦そっとしておいてほしいなど

わかっているようなことが本人に届いていないということも実感できた。

家族としては、長期にわたる本人との生活で大変な思いもあるが、家族が自分の生活を大事にすることが本人の回復への道につながると思った。矢田さんありがとうございました。(和子記)



### にぎわい市

11月15日(日) アルネ東広場

焼きそば・コーヒー・こんにやく・野菜・お味噌・ボカシなど販売します。今回もご協力よろしくをお願いします。

### 「津山散歩道」

秋祭りたけなわー。

津山の秋祭りは24、25日の徳守さんでフィナーレ。津山の秋の一大イベントで今からとても楽しみです。

我が町内の志戸部八幡神社では11日に盛大に行われました。当日は晴天に恵まれた、まさに「祭り日和」。

大勢の参拝者でにぎわう昼下がりの神社。神事に続いて、白い着物・赤い袴の鶴山小5年女子5人が華やかに「浦安の舞」を披露。そろいの法被姿の氏子青壮年ら約30人が担ぐ大人みこしと、小学生の子どもみこしが神社を出発。「そーやれ」の掛け声を挙げながら威勢よく町内約4kmを練り歩き、住民らの大きな拍手を受けていました。

その昔、各地の鎮守の森からは笛や太鼓の音が聞こえました。小学生だった少年M達は、教室の窓から聞きながら、昼まで(当時、祭りの日は半ドン)の授業も気もそぞろで、終業の鐘がなると同時に学校を飛び出し、一目散に家に帰り、カバンを放り投げるように置き、いくらかの子使い銭を握り、神社へ向け猛ダッシュ…。息を切らして神社に着くとすでにそこは別世界。参道には綿菓子やおもちゃを売る屋台が並び、本殿からは笛や鐘、太鼓の音が響き、まるで劇場(芝居小屋)のような空間になっていた。…そのとき少年Mの心は宙に舞い、興奮のつぼと化するのだった。そして屋台での品(おやつ)選びに迷い、出動した、みこしの後を追いかけていき、みこしが神社に帰還する、夜まで少年Mの興奮は収まらないのであった。



### お知らせ

12月はお楽しみ若者活動として、カラオケ(ユースボール)を計画しております。